



ソマリア難民キャンプ訪問報告

「緊急事態は終わり、今は第二段階に進んでいる。しかし子供たちにとり、「今が」緊急事態なのです。」

ケニアのソマリア難民キャンプ、ダガハリキャンプの責任者のパチンゲン氏が言った言葉を忘れることができない。確かに、このキャンプに関する限り、食物に事欠く飢餓状況はない。しかし、これから育っていく子供たちにとって、いまでのような教育を受け、どのような環境のもとに成長するかは緊急の問題である。

小学校、中学校の区別なく一つの教室で、入れ替え制で授業する。教室はブッシュの灌木で囲まれた粗末なもので、先生のための机もない状態である。幸い教室を建て増すためのお金はデンマークの援助団体からくるとのことであった。着る服がなくてテントをまとっている子供たちがいる。ダガハリキャンプ四万人のうち三分の一の子供たちの着る粉ミルクやビスケットなど補給食のための支援を求められた。午後からは、まさに真夏の砂浜でテントの中の暑さである。援助活動は大変な仕事である。



補給食の粉ミルクの配給を持つ子供たち。地中深く掘り下げた水の水車で運ぶ。ミルクは甘くしておいた。女性たちも自立のために、こぎりに機を作っている。

空輸に支えられる救援活動

ソマリアの国内で働く民間の救援団体（NGO）にとり、空輸による物資の調達には、彼らの生命線である。

英国企業家の飛行機運送のハーキョリイ賞。物資を運り上げた。昨年5月14日、1日にも欠かさず空輸を続けている。



機材は古い。3月15日、ソマリアの空輸では、トラックやトラックの燃料、粉ミルク、炊飯器、調理の工具など、物資も不足している。

4月14日付けのナイロビからの最新情報では、昨年5月以来、合計で1,201回のフライトを、モガディシオ、バイドアをはじめ、最近ではジブチやソマリランドなどをふくめ20ヶ所に行い、2万トン以上の物資を運んでいる。1回のフライトに220万トンかかると考えられる膨大な費用であるが、治安の悪さ、交通の劣悪さからして、人命を救うために最も有効な手段である。資金はヨーロッパを中心とする援助団体およびオランダと北欧の政府が提供しているが、この所、資金難に陥りSOSが届いている。LWFは6、7月までは続けたいと考えている。

アイルランドの援助団体、ゴールから3月5日にLWFのナイロビ事務所へ寄せられた手紙の一節である。「ソマリア向けの空輸の回数を減らすと聞きましたので、そのことに関してお手紙を差し上げる次第です。このことは私たちにとりましても最大の関心事であります。なぜなら我々のモガディシオおよびバイドアの援助活動の成功は、LWFの空輸に大きく依存しているからです。報道機関は港からの輸送の改善をいいますが、私たちが、海送の大幅な遅れと難しさを経験しています。現時点で、このような不確かな輸送に頼ることはできません。」

わかちあいプロジェクト募金 ソマリア難民・スーダン難民の子供のために

世界の難民の数は1700万人といわれ、アフリカ全体では600万人に達します。今年2月の国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の資料によりますとケニア国内の難民の総数は39万4千人で大小7の難民キャンプがあります。

今回、支援を考えているソマリア難民キャンプダガハリの人口は4万5千人でその内子供が1万5千6百人です。また主に、スーダン人で構成されるカクマの

難民キャンプの人口は2万人ですが、約半数が平均年齢13才から14才の子供たちです。スーダンも南東部の内戦で多くの子供たちが両親を失い、長い道程をさまよってエチオピアのキャンプにたどりつきましたが、最近の政権の交替の結果エチオピアを追い出された子供たちです。

ソマリア難民キャンプは、直接の難民の世話にはケア・インターナショナルというNGOが中心に行い、スーダン難民キャンプの世話には、LWSが中心に行なっています。

ダガハリキャンプは3月にソマリア人強盗に食糧庫が襲われ、4名のケニア人警官が殺されるという事件が起きたことが現在でも治安が最大の課題です。基本的な食糧を定期的にトラックを護衛で守り一気に輸送する体制ができており、月に2回の頻りに配給されています。

しかし、子供の将来を考えると、今の教育は決定的です。粉ミルクと高蛋白質のビスケットは子供の成長のために、そして、一確のおやつとして子供たちを学校にこさせるために必要なのです。



テントの生地を履がりにまとった子供たち

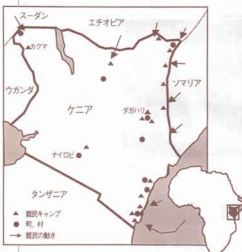
募金の目的と目標額

- 粉ミルクと高蛋白質のビスケットの購入費用のため（物資はケニアで購入します）
- スポーツ用具の購入費用（両親を失った子供たちを立派にさせるためサッカーやバレーなどが立っています）
- 職業訓練プログラムのため

募金目標額 500万円

募金の送金先

郵便振替口座
わかちあいプロジェクト募金
東京3-782268



◇ソマリア救援の募金に多くのかたがご協力くださりありがとうございました。同封の会計報告にありますように6百万の募金が寄せられました。皆様のお金は生かされ必要な物資の空輸に用いられました。新たな形で支援を続けますので、ご協力ください。

お知らせ

◇東アフリカ救援事務局の郵便口座は生かされていますが、できれば、わかちあいプロジェクト募金の口座に切替えてゆきたいと思っています。同封の振替用紙をお使いください。

◇6月に墨田区から寄贈される乾パン1万5千食と教会の婦人会の協力で集める子供のための古着をコンテナでニアに送ります。今回の試みが成功するようでしたら、さらに続けたいと思います。関心のあるかたはご連絡ください。

わかちあいプロジェクト 運営委員会

有機栽培紅茶の販売、ソマリアの募金と昨年から行なってきた働きをまとめてグループとして、責任体制を整えるため運営委員会を組織いたしました。開かれたグループとして成長する事を望んでいます。右の写真は第1回の運営委員会を4月13日午後7時より開いたときのものです。よろしくお願ひします。

委員の紹介

- 宝珠山幸郎（代表、日吉教会牧師）
- 松本 傑（事務局、聖パウロ教会牧師）
- 陶山 徹（書記、会社員）
- 綱 春子（会計、保育園職員）
- 安井武雄（アジア学院職員）
- 堀本一男（デザイナー）
- 川本 実（会社員）
- 竹田 弘（教師） 中尾由美（フルタイム）
- 川本清美（事務局） 松本美穂（事務局）



右から、宝珠山、安井、松本、堀本、綱、川本、陶山、松本

発行所 わかちあいプロジェクト 〒130東京墨田区江東橋5-3-1 電話：03-3634-7687 FAX：03-3634-7808
編集者 松本 傑 郵便振替口座：わかちあいプロジェクト 東京8-758331
わかちあいプロジェクト募金 東京3-762258